

六日町史

資料編 第二卷
近世・現代

目次

口絵	
発刊のことば	南魚沼市長 井口一郎
はじめに	郷土史編集委員長 本山幸一
凡例	
近世	
第一章 村の支配と租税	3
第一節 支配の変遷	8
第一項 近世前期の支配	9
1 (欠年) 戊九月	
堀丹後守より永正庵へ寺領の寄進状	9
2 慶長三年（一五九八）九月	
堀監物より富士別当坊へ神領の寄進状	9
3 慶長三年（一五九八）九月	
堀監物より八幡神社の大宮司へ神領の寄進状	9
4 慶長五年（一六〇〇）三月	
堀丹後守より法音寺へ寺領の寄進状	10
5 慶長十年（一六〇五）二月	
堀丹後守より上村大宮司へ神領の寄進状	10
6 慶長十九年（一六一四）九月	
山田隼人正より八幡神社の大宮司へ社領の寄進状	10
7 (欠年) 三月	
山田藤左衛門より八幡宮神主へ諸役免除の書付け	10

8	(欠年) 十月	元陣屋を小千谷村から十日町村へ移す申渡 し……………	17
9	岩倉伝右衛門より法音寺へ寺領につき書状… 元和九年(一六二三) 七月	16	明和五年(一七六八) 三月
	水谷又左衛門らより八幡神主へ神田の寄進 状……………	17	大割元役の復活を命じる通達……………
10	元和十年(一六二四) 二月		天明六年(一七八六) 八月
	平岡二郎右衛門らより宝珠院へ畑開発につ き書状……………	18	天明六年(一七八六) 九月
11	(欠年) 六月		当年の酒造高を半石造りにするよう厳達……………
	萩田主馬より法音寺へ書状……………	19	寛政元年(一七八九) 三月
12	第二項 天和元年以降の支配……………	20	寛政七年(一七九五) 一月
	享保五年(一七二〇) 二月		貯穀郷蔵の造立につき請書……………
	亀田三郎兵衛より村々へ申渡し……………	21	六日町等四か所陣屋取毀差止め、村々へ下 付のこと……………
13	寛保三年(一七四三) 三月	22	寛政八年(一七九六) 七月
	新潟津出米の検査方法改正につき申付け……………	23	塩沢・六日町組の他出売米につき村役人へ 吟味を委任……………
14	宝暦三年(一七五三) 五月	24	第二節 村の検地……………
	縮下値による上納金差延べ願い却下の通達……………	25	第一項 慶長検地……………
15	宝暦六年(一七五六) 三月		

22	慶長三年（一五九八）九月	魚沼郡田中村の検地帳	25
23	慶長三年（一五九八）八月	魚沼郡野中村の検地帳	35
24	天和二年（一六八二）四月	第二項 天和検地	41
25	（欠年）	検地につき屋敷高の免除願い	41
26	天和三年（一六八三）閏五月	魚沼郡六日町村検地帳の寄せ帳	43
27	宝暦六年（一七五六）十二月	第三項 宝暦の新田検地	45
		魚沼郡東泉田村の宝暦新田検地帳	45
		第三節 年貢と御蔵	50
		第一項 年貢	51
28	(1) 年貢に関する諸帳簿		51
	寛永十三年（一六三六）十二月		
29	寛永十八年（一六四二）十二月	泉新田村の年貢庭帳	51
30	延宝五年（一六七七）十二月	坂戸村の年貢米庭帳	52
31	天和元年（一六八一）十一月	坂戸村の年貢・小役など割り帳（抄）	53
32	天和二年（一六八二）十一月	坂戸村の年貢割付け状	56
33	貞享元年（一六八四）十一月	坂戸村の年貢割付け状	57
34	享保九年（一七二四）十月	青木新田村の年貢割付け状	58
35	寛文七年（一六六七）六月	青木新田村の年貢割付け状	59
36	延宝五年（一六七七）六月	長森村の年貢皆済目録	61
	坂戸村の年貢皆済目録		62

37	延宝六年（一六七八）五月	74
	坂戸村の年貢皆済目録	64
38	延宝七年（一六七九）六月	
	坂戸村の年貢皆済目録	66
39	元禄五年（一六九二）六月	
	山口村の年貢皆済目録	68
	第二項 御 蔵	68
40	正徳四年（一七一四）八月	
	下原村など十か村より蔵分け願ひ	68
41	宝歴九年（一七五九）十二月	
	御蔵番給米の請取り証文	70
	第二章 組と村の運営	71
	第一節 六日町組と割元	72
	第一項 六日町組の割元	73
42	（欠年）	
	六日町組の御蔵と石高	73
43	嘉永二年（一八四九）九月	
	第二項 井口騒動	85
	元文二年（一七三七）	85
	六日町組大割元の変死事件の概要	85
44	嘉永七年（一八五四）	
	六日町組の諸割り方につき郷元の扱いを不当とする訴え（二点）	76
45	元文二年（一七三七）	
	大割元の変死に関する口上書	88
46	元文二年（一七三七）十月	
	第二節 村のしくみ	91
	第一項 村の概要	92
47	延宝九年（一六八一）八月	
	小栗山村明細帳	92
48	宝暦五年（一七五五）七月	
	山口村明細帳	94
49	文政十年（一八二七）一月	
	舞台村一村借用証文	99
	第二項 百姓と家	99

50	正徳二年(一七二二) 六月	百姓が娘に智をもらい相続させる跡式証文……	99
51	寛延二年(一七四九) 二月	名字百姓への譲高証文……	101
52	明和三年(一七六六) 二月	塩沢組一日市村百姓名跡を得て、罷り越す につき一札……	102
53	天保十一年(一八四〇) 十二月	百姓株を抵当に入れ金三分を借用する証文……	102
54	嘉永二年(一八四九) 一月	髪結職人への百姓株譲渡証文……	103
	第三節 村役人と村政……		103
	第一項 村役人の職務と交代……		105
55	元禄七年(一六九四) 八月	百姓が庄屋方への手間人足・代銀等を出さ ないため代官へ口上……	105
56	文政十三年(一八三〇) 十二月	六日町村年寄役の任命願ひ……	106
57	文久元年(一八六一) 十月	野田村役人の選出につき取決め証文……	107
	第二項 文書と授受と引継ぎ……		108
58	天和二年(一六八二) 三月	博奕・盗人等防止手形……	108
59	貞享二年(一六八五) 十二月	印判紛失につき差上手形……	109
60	元禄三年(一六九〇) 十一月	捨子をしないよう差上一札……	109
61	元禄七年(一六九四) 三月	他国他領の者へ宿を貸さない旨の請書……	109
62	元禄七年(一六九四) 六月	犬の有無につき差出証文……	110
63	元禄十一年(一六九八) 十一月	庄屋引継ぎ文書の受取り証文……	111
64	嘉永七年(一八五四) 十月	庄屋交代につき諸帳記受取り、三年後に後 役に引渡す取替証文……	111

71	天保十五年(一八四四)八月	128	79	文政元年(一八一八)七月	137
70	天保四年(一八三三)九月	126	78	正徳元年(一七一二)六月	136
69	貞享四年(一六八七)四月	124	77	慶応元年(一八六五)三月	135
68	延宝八年(一六八〇)八月	123	76	文政十三年(一八三〇)七月	134
67	天保十四年(一八四三)二月	118	75	延享元年(一七四四)五月	134
66	元禄十二年(一六九九)三月	112	74	元治元年(一八六四)七月	133
65	寛文十一年(一六七二)二月	112	73	享保八年(一七二三)四月	132
第三項	五人組と宗門改め	112	72	宝永七年(一七一〇)三月	132
	余川村宗旨改帳	112	71	坂戸村岩用水江の普請見積り帳	132
	五人組組抜けにつき願い	117	70	用水堀永昌庵内の分江さらいの取決め	133
	五人組帳前書きと成員の書上げ	118	69	久白新田堰取入口につき対談書	134
	第四項 村の取決め	123	68	延享元年(一七四四)五月	134
	作物盗みにつき夜番取決め	123	67	渇水のため取水口を上流へ移す取決め	134
	日損につき番水証文	124	66	青木新田の取水口と龜朶場入会の交換証文	135
	盗人禁止の村決め	126	65	青木新田呑用水の江代米取決め	136
	道普請、堰上げ等不参加者への欠席料の取決め	128	64	泉村等四か村より新堀新田貰い水取決め	137
			63		
			62		
			61		
			60		
			59		
			58		
			57		
			56		
			55		
			54		
			53		
			52		
			51		
			50		
			49		
			48		
			47		
			46		
			45		
			44		
			43		
			42		
			41		
			40		
			39		
			38		
			37		
			36		
			35		
			34		
			33		
			32		
			31		
			30		
			29		
			28		
			27		
			26		
			25		
			24		
			23		
			22		
			21		
			20		
			19		
			18		
			17		
			16		
			15		
			14		
			13		
			12		
			11		
			10		
			9		
			8		
			7		
			6		
			5		
			4		
			3		
			2		
			1		

	第二節 農業と林業.....	154
	第一項 農業技術と農作業.....	155
93	弘化三年（一八四六）八月 村々の作物作況と位附書上げ.....	155
94	嘉永二年（一八四九）五月 村々の田方値附け時期日書上げ.....	156
	第二項 農業経営.....	159
95	文政八年（一八二五）二月 田畑の小作米・利米取立て帳.....	159
96	文化十年（一八一三）二月 田地の小作証文.....	165
97	文政十一年（一八二八）十月 九年季の田地小作証文.....	165
98	文政十三年（一八三〇）九月 田地の小作証文.....	167
99	天保三年（一八三二）十月 田地の小作証文.....	167
100	天保九年（一八三八）二月.....	167
	田地小作証文.....	168
101	天保九年（一八三八）三月 田地の入立米・諸貢租・諸懸り計算書.....	169
102	天保十一年（一八四〇）二月 控え田の小作証文.....	170
103	天保十五年（一八四四）十二月 年貢米の預り証文.....	170
104	文化元年（一八〇四）十二月 奉公人請け状.....	171
105	文政八年（一八二五）十二月 奉公人請け状.....	171
106	嘉永五年（一八五二）十二月 奉公人請け状.....	172
	第三項 土地の売買と質入れ.....	173
107	文化十一年（一八一四）十二月 畑かや場質入れ証文.....	173
108	文政六年（一八二三）三月 田地所望され譲り証文.....	173

109	天保五年(一八三四)十二月 山林譲渡し添え証文……………	174
110	天保七年(一八三六)十二月 田地譲り渡し証文……………	175
111	安政四年(一八五七)十二月 山一か所質入れ証文……………	175
112	天保七年(一八三六)十二月 有合せ質入れ屋敷返り証文……………	176
113	文久二年(一八六二)四月 田地書入れ金子借用証文……………	176
114	天保十五年(一八四四)十二月 田地有合せ質入れ証文……………	177
115	嘉永二年(一八四九)十二月 田地質入れ金有合せ証文……………	178
116	嘉永三年(一八五〇)十二月 質地増し金証文……………	179
117	万延二年(一八六一)三月 質入田地につき趣意金五両で請戻し取決め……………	179
118	慶応二年(一八六六)四月 質入れ地請戻しの争いにつき和談……………	180
119	文政七年(一八二四)十二月 他村への質入地は流地禁止とする村決め……………	181
120	(欠年) 下原新田にて流質地禁止の村決め……………	182
121	正保二年(一六四五)十二月 下原新田・山口村山の入会申付書……………	183
122	寛文九年(一六六九)五月 下原新田きめ沢の刈敷盗刈につき一札……………	184
123	(欠年) 亥二月 竹俣新田村・小栗山村の山争い訴状……………	184
124	元禄八年(一六九五)九月 小栗山村・嶋新田村の山論裁許……………	185
125	享保十七年(一七三二)閏五月 下原新田村の割山取決め証文……………	185
第四項 山野の利用…………… (1) 入会と争い……………		

126	宝曆七年（一七五七）六月	山口村・明川新田と上原村外六か村入会山論 の内済証文……………	186
127	宝曆十三年（一七六三）三月	永松村、京岡新田村と山論につき訴状……………	187
128	安永六年（一七七七）二月	山口村の立木山四か所を留山とする証文……………	188
129	文政十一年（一八二八）	鹿朶山境界ならびに山手米の取決め証文……………	190
130	(2) 林産物……………		191
130	貞享二年（一六八五）十二月	役所より片栗粉の代金受取り……………	191
131	元禄十年（一六九七）十一月	ころ木流しの川留めにつき取調べ願ひ……………	191
132	正徳二年（一七一二）九月	泉新田百姓薪流し違反につき詫び証文……………	193
133	(欠年) 十月	五十沢六か村より六日町村へ木呂流失の通	
134	元禄十二年（一六九九）・同十五年（一七〇二）	井口権之助より造り酒運上の受取り……………	196
135	享保四年（一七一九）一月	六日町村酒屋より造酒米と役銀の書上げ……………	196
136	(2) 川 獺……………		198
136	(欠年)	鮭の役銀取立て切手（五点）……………	198
137	弘化三年（一八四六）五月	青木新田より鮭役永の出願につき隣村の承 認願ひ……………	198
138	弘化三年（一八四六）閏五月	青木新田より鮭役永の出願につき隣村と和 解証文……………	199
139	弘化四年（一八四七）一月		
139	第三節 諸産業と商業……………		194
	第一項 諸産業と諸職……………		196
	(1) 酒 造……………		196
	知……………		194

146	嘉永四年(一八五二)	店の借用証文.....	205
145	弘化二年(一八四五) 十二月	塩買入れ借入金の受取り証文.....	203
144	寛政四年(一七九二) 十二月	塩買入れ借入金の受取り証文.....	203
143	安永六年(一七七七) 十二月	髪結より元手の借金証文.....	203
142	正徳四年(一七一四) 十二月	大工役の譲り渡し証文.....	202
141	天保八年(一八三七) 十一月	鍛冶屋の元手借用証文.....	201
140	天明六年(一七八六) 九月	鍛冶弟子の役銭につき取決め.....	201
(3)	職人.....	青木新田より鮭役永の上納請け証文.....	200
147	安政六年(一八五九) 二月	売り物の刃剣書画預り証文.....	205
148	文化十年(一八一三) 五月	難洪の頼母子親に代り返金する証文.....	206
149	天保三年(一八三二) 六月	頼母子の闇当り金につき加質地証文.....	207
150	天保十二年(一八四二) 十月	与板の扇屋より金三〇両の為替手形.....	207
151	寛政十二年(一八〇〇) 三月	鑞一丁の質入れ先を間違え謝り証文.....	208
152	天保二年(一八三一) 七月	質株譲渡しの諸雑費借用証文.....	209
153	天保五年(一八三四) 三月	六日町組へ質株式の許可願い.....	209
(4)	質屋.....		
154	第二項 商業と金融.....		
(1)	商業.....		

第四章

六日町の宿駅と河岸……………211

第一節 六日町宿と五日町宿……………212

第一項 六日町宿……………213

享保十五年（一七三〇）七月……………213

六日町村宿屋より彦左衛門宿役取上げ願ひ……………213

延享三年（一七四六）一月……………213

六日町宿問屋利左衛門より問屋役免除の願

ひ……………213

安永八年（一七七九）八月……………213

六日町宿問屋より馬方の増し錢問題につき

吟味願ひ……………214

天明六年（一七八六）十月……………215

六日町宿より商物の付通しに反対の書上げ……………215

天明八年（一七八八）十二月……………215

六日町村馬指・船差の引受け一札……………217

寛政四年（一七九二）七月……………217

六日町宿の丹後屋より村松藩の定宿存続願

ひ……………218

文化二年（一八〇五）七月……………219

六日町宿旅籠屋仲間にて宿引きの規制取決

め……………218

第二項 参勤交代と六日町……………219

享保十五年（一七三〇）二月……………219

長岡藩主の帰国につき六日町本陣の準備概

況……………219

天保十四年（一八四三）三月……………224

六日町宿本陣より村松藩へ手当願ひ……………224

第三項 五日町宿……………224

延宝八年（一六八〇）八月……………224

五日町村が幕府から与えられた継立て賃錢

の定め……………224

文政十三年（一八三〇）二月……………225

五日町宿本陣より長岡藩へ拝借金願ひ……………225

文久三年（一八六三）二月……………227

浦佐・五日町両宿の助合人馬につき取決め……………227

第二節 六日町河岸……………229

171	天保二年（一八三二）十月	240	172	天保二年（一八三二）十一月	241
170	文政十三年（一八三〇）十一月	235	173	享保元年（一七一六）十月	242
169	文政十三年（一八三〇）八月	235	174	享保元年（一七一六）十月	242
168	寛文八年（一六六八）九月	235	175	文化四年（一八〇七）五月	243
167	文政十二年（一八二九）三月	230	176	弘化二年（一八四五）十一月	245
166	安永三年（一七七四）四月	230	177	小出嶋河岸煮売茶屋、川船内立入商売につ いて詫書……………	246
165	六日町船道維持のため船持ち全員の申合せ…	230	178	六日町船道より小千谷御役所へ長岡荷問屋 訴え……………	241
164	船道維持のため運営方法確認の改訂申合せ…	232	179	第三項 さまざまな船の運行……………	242
163	第二項 特権の維持……………	235	180	第三項 さまざまな船の運行……………	242
162	寛文八年（一六六八）九月	235	181	享保元年（一七一六）十月	242
161	浦佐村と六日町村の船出入について郡奉行	235	182	三か宿と筏流し出入りについて六日町三役 人より代官所へ口上書……………	242
160	大門与兵衛の裁定……………	235	183	三か村筏流し出入りについて六日町三役人 他から代官所のお尋ねに返答書……………	243
159	文政十三年（一八三〇）八月	235	184	文化四年（一八〇七）五月	243
158	六日町船頭より長岡問屋にあて積荷につき 差し出した一札……………	235	185	東泉田村の渡し場を巡って西泉田村が大月 村と対立、嘸い庄屋二名の立入りで和熟成 立……………	245
157	文政十三年（一八三〇）十一月	235	186	弘化二年（一八四五）十一月	245
156	六日町船持から長岡役所へ長岡商人の非法 訴え……………	236	187	小出嶋河岸煮売茶屋、川船内立入商売につ いて詫書……………	246
155	天保二年（一八三二）十月	240	188	六日町船会所より長岡役所へ長岡荷問屋訴 え……………	240

第四項 株の売買……………		247
177 文政六年（一八二三）十二月	船株一道譲渡証文……………	247
178 天保十三年（一八四二）四月	船壹艘売渡証文 船具一切共……………	247
第三節 回米の積下げ……………		248
第一項 年貢米の輸送……………		249
179 元禄十六年（一七〇三）五月	回米積下げの運賃金請取書……………	249
180 享保六年（一七二二）四月	塩沢付御城米川下げについて六日町船持の請書……………	250
181 享保十七年（一七三二）五月	六日町船会所より塩沢組御年貢米運賃米の受取書……………	252
182 享保十八年（一七三三）四月	長岡米宿より寺尾村庄屋へ川下げ米の請取書……………	252
183 文化九年（一八一二）九月		253
郡中舟持共から川下げ賃米二割減について願書……………		253
184 文政十二年（一八二九）三月	回米川下げ時季及び諸経費余荷について願書……………	254
185 文政十三年（一八三〇）閏三月	回米請負について契約取決め証文……………	255
186 天保十四年（一八四三）十一月	六日町村より郡中へ新湯奉行川下り内費の補助願い……………	256
187 弘化四年（一八四七）六月	回米川下げ終了後の空船引登り御用捨についての歎願……………	257
188 弘化五年（一八四八）三月	御預方御役所へ六日町村より賃米二割減の用捨願い……………	258
189 嘉永二年（一八四九）二月		

190	安政三年（一八五六）一月 六日町船持が年々休船難渋について御救方を願ひ出る……………	259
191	第二項 難船事故…………… 延享四年（一七四七）四月 六日町船塩沢組御回米川下げ中に麓村で難船の届け……………	262
192	安政二年（一八五五）四月 大月蔵の御回米和南津村八郎坊で難船の届け出……………	264
193	安政二年（一八五五）四月 御回米船難船について再届け出……………	265
194	天保十一年（一八四〇） 内ヶ巻とろと巻難船弁米例の留書き……………	266
195	元禄十二年（一六九九）九月 地境争いに際し、神文焼灰を土に混せて飲み決着……………	269
196	享保十三年（一七二八）八月 田崎村諏訪祭礼の際、脇差にて手傷負わせにつき詫び証文……………	270
197	文化三年（一八〇六）十月 欠之上村の呑み水取入れによる川窪村との争いにつき一札……………	271
198	文化八年（一八一二）二月 下原新田農休日書上帳……………	273
199	文政四年（一八二二）二月 借家につき、家賃支払・屋根修復・雪掘等負担契約……………	275
200	文政十年（一八二七）閏六月……………	
第五章 暮らしと災害……………		267
第一節 人々の暮らし……………		267
第一項 村人の生活……………		269

	屋敷内にある家を家財ともども屋敷所有者に売却……………	276
	第二項 旅の様子……………	276
201	天保十五年（一八四四）七月 富士山道中記……………	276
202	弘化三年（一八四六）三月 伊勢参宮後の振舞い持参品……………	279
203	万延元年（一八六〇）十二月 横浜・鎌倉・江ノ島道中入用記……………	280
204	第三項 医療……………	283
	安永三年（一七七四）七月 上州の旅人が六日町に宿泊中病氣にかかり、 医者が医療を施すも病死の一札……………	283
205	享和三年（一八〇三）五月 麻疹の禁忌書……………	284
206	文久二年（一八六二）九月 麻疹流行の記録……………	285
第二節 家……………		286
	第一項 家の維持……………	287
207	享保十八年（一七三三）十二月 畑を借りて名子を住まわせる証文……………	287
208	寛保四年（一七四四）三月 譲渡された土地代金をめぐり質入れ証文……………	287
209	天明元年（一七八二）八月 本家とマキ一統で墓所につき取決め……………	288
210	文政四年（一八二一）三月 無高にならないため質入れ高の借用証文……………	289
211	文政九年（一八二六）十二月 本家へ改名と烏帽子親の願い……………	290
212	文政十年（一八二七）九月 町家一軒の借家証文……………	291
213	安政六年（一八五九）十月 養子も親同様に本家へ出入り願い……………	291
	第二項 相続と介護……………	292
214	天保六年（一八三五）九月 分家するにつき家土蔵等の譲受け一札……………	292

215	天保六年（一八三五）九月	223	安政四年（一八五七）一月
	分家させるにつき田畑等の譲渡し証文……………		岩崎村若連中の取定め帳……………
216	文政十年（一八二七）四月		第三節 災害と不穏……………
	孫娘夫婦の監督を本家に頼む一札……………		第一項 飢饉と対策……………
217	天明七年（一七八七）十二月	224	（欠年）
	養子に分家名跡と財産を譲る証文……………		悪作につき泉新田より救済願ひ……………
218	嘉永五年（一八五二）三月	225	延宝八年（一六八〇）八月
	養子につき病氣や老衰の介抱等の取決め……………		飢饉につき田畑の検分願ひ……………
219	享保二十年（一七三五）一月	226	天明三年（一七八三）十月
	母に親不孝のときに備え取決め……………		盗みを防ぐための連判証文……………
	第三項 女性と若者……………	227	（欠年）
220	慶応二年（一八六六）三月		夫食米買入れの遅延につき割元へ申入れ……………
	女房の狼藉につき夫より謝罪の一札……………		第二項 災害と対策……………
221	天保十三年（一八四二）二月	228	元治元年（一八六四）
	奉公中主家に無断で妻帯し謝罪の証文……………		西泉田村洪水につき注進……………
222	嘉永七年（一八五四）五月	229	元治元年（一八六四）十月
	分家の夫死去につき胎児と母親の将来を定める取決め……………		西泉田村洪水につき年貢金納願ひ……………
			第三項 不穏・騒動……………

230	寛政三年（一七九二）十月	第一項 俳諧と献額……………	322
231	宮村宇右衛門の越訴に係わる書付け（四点）…	237 安永七年（一七七八）	
	文化七年（一八一〇）	六日町連による年賀の俳諧……………	322
232	塩沢・六日町方面の騒ぎにつき書留め……………	238 文化十四年（一八一七）	
	（欠年）	無事庵慮呂編の樗良追善句集『雪手向』……………	322
	五十沢谷の蔵元庄屋に宛てた無名の張り札……………	239 安政五年（一八五八）五月	
		栗之本知可良追福会の連歌……………	328
第六章 学芸と信仰……………	314	240 寛政五年（一七九三）	
第一節 寺子屋と私塾……………	315	無事庵慮呂編『山里集』（抄）……………	330
233 安政二年（一八五五）		241 慶応二年（一八六六）八月	
寺子屋の手本『八海山往来』……………	315	竹葉亭にて興行の俳諧の連歌……………	330
234 （欠年）		242 文化元年（一八〇四）	
寺子屋の手本『五十沢往来』……………	317	青木新田神明社の献額……………	331
235 文久三年（一八六三）二月		243 安政六年（一八五九）六月	
寺子屋の手本『百姓用文通』……………	319	大月村伊夜彦神社の献額……………	333
236 寛政九年（一七九七）七月		244 慶応三年（一八六七）	
寺院で学ぶ寺子の誓約書……………	320	寺尾村正眼寺観音閣の献額……………	334
第二節 俳諧と詩歌……………	321	第二項 漢 詩……………	336

245	(欠年)	
	漢詩に歌われた八海山と川船……………	336
246	天保五年(一八三四)	
	黒田玄鶴「長森原詩」……………	337
	第三項 隨 筆……………	338
247	文化十四年(一八一七) 五月	
	今成慮呂『坂戸山記』(抄)……………	338
248	文政七年(一八二四) 九月	
	今成慮呂『無事庵自然抄』年中行事(抄)……………	340
	第三節 信 仰……………	344
	第一項 寺社の除地願い……………	345
249	天和二年(一六八二) 三月	
	永昌庵より除地の願い……………	345
250	天和二年(一六八二) 四月	
	宝珠院より除地の願い……………	346
251	天和二年(一六八二) 四月	
	実相院より除地の願い……………	346
252	天和二年(一六八二) 六月	
	善龍院より除地の願い……………	347
253	元禄十一年(一六九八) 三月	
	岩崎村より諏訪神社の除地願い……………	347
	第二項 村と神社……………	348
254	寛保三年(一七四三) 九月	
	鎮守の道を新設するにつき畑地の寄進証文……………	348
255	延享四年(一七四七) 三月	
	八幡宮神主へ神道による葬祭の許可……………	349
256	宝暦六年(一七五六) 七月	
	新田検地につき除地の境界をめぐる誤り証文……………	349
257	嘉永五年(一八五二) 十一月	
	本尊の再刻につき観音像の借用願い……………	350
258	文政四年(一八二一) 七月	
	旦那寺より巡礼志願の者につき往来一札……………	351
259	嘉永七年(一八五四)	
	養智院より火防の月護摩につき広告……………	352
	第三項 遊行上人の回国……………	352

260	文化十一年（一八二四）八月	266	第一項 天保の飢饉……………	370
	一空上人を迎えるにつき六日町組の記録……………		天保七年（一八三六）二月	
261	嘉永三年（一八五〇）五月		凶作につき五十沢谷の村々より取締りの願	
	他阿上人を迎えるにつき六日町組の記録……………		い……………	370
		267	天保九年（一八三八）七月	
			盗みを防ぐための連判証文……………	373
第七章 幕末の六日町……………	361			
第一節 支配と負担……………	362	268	（欠年）	
第一項 支配の変遷……………	362		天保四年の悪作と翌年の押出しなどにつき	
262	万延元年（一八六〇）十二月		覚書……………	374
	最寄替一件につき出府庄屋へ激励書状……………	269	天保十二年（一八四一）九月	
			天保改革期の質素儉約令……………	374
263	天保七年（一八三六）六月			
第二項 村の負担……………	365	第二項 村の動き……………	379	
	上納金納入期日につき請書……………	270	天保二年（一八三一）十二月	
264	安政三年（一八五六）一月		六日町御蔵の焼失につき大月村庄屋の日記……………	379
	質素儉約につき申渡し書……………	271	嘉永七年（一八五四）	
265	慶応二年（一八六六）一月		四十日御蔵の蔵分け議定証文……………	383
	兵賦の人足徴発につき村方の取決め……………	272	安政二年（一八五五）十月	
第二節 暮らしの変化……………	367		蔵分け願い村々の念書……………	384

		第三項 清水越えの計画……………	385
		273 文久三年（一八六三）九月	
		清水新道開発に付坂戸御蔵建設願ひ……………	385
		274 文久三年（一八六三）十二月	
		清水新道開削願書……………	385
		近代	
		第一章 近代六日町のあけぼの……………	391
		第一節 北越戊辰戦争と六日町……………	391
		1 一八六八年（慶応四）	
		北越官軍先鋒軍中日記（抄）……………	392
		2 一八六八年（慶応四）	
		清水峠昼夜番野田村隣村被仰渡……………	393
		3 一八六八年（慶応四）	
		二日町村渡場差止……………	393
		4 一八六八年（慶応四）	
		慶應四辰年夏 御宿日記留 官軍様御繰込……………	394
		5 一八六八年（慶応四）	
		人足差出覚……………	396
		6 一八六八年（慶応四）	
		覚……………	396
		第二節 新しい制度と村人……………	396
		7 一八七一年（明治四）十一月	
		戸長副勤務規則対談書之事……………	398
		8 一八八一年（明治十四）七月	
		村内議定証之事……………	399
		9 一八八四年（明治十七）	
		御用達類控……………	400
		10 一八七四年（明治七）七月	
		田肥刈取に関する訴状……………	404
		11 一八七五年（明治八）	
		山林原野を民有地とするよう願書……………	405
		12 一八七六年（明治九）二月	
		立木伐採山出入に付五か村囃委任……………	406
		13 一八七五年（明治八）	

14	徴兵書上帳 控……………	407
	一八七五年(明治八)	
15	徴兵検査召喚状……………	408
	一八七四年(明治七) 一月	
16	徴兵一件に付儀定書……………	410
	一八六九年(明治二)	
17	小千谷民政局からの通達……………	410
	一八七三年(明治六)	
18	六日町校の開校に関する資料……………	410
	一八七五年(明治八)	
19	教師の任免……………	412
	一八八三年(明治十六) 一月	
20	中学校入学希望についての通知……………	414
	一八八二年(明治十五)	
21	明治十五年度后半期欠之上校実費報告……………	414
	一八六九年(明治二) 七月	
22	山口村の神社書上帳……………	419
	一八七二年(明治五)	
23	修験宗の廃止と宗旨替え……………	421
	第三節 新しい産業の発展……………	422
24	一八九一年(明治二十四) 九月	
25	山道開削工事竣工……………	423
	一八九七年(明治三十)	
26	六箇村里道復旧工事……………	423
	一八七六年(明治九)	
27	長岡まで川船通船会社設立……………	423
	一八八五年(明治十八) 九月	
28	六日町船の競争……………	426
	一八八四年(明治十七) 十二月	
29	南魚沼郡農談会の活動……………	427
	一八九一年(明治二十四)	
30	有志農談会の活動……………	427
	一八七九年(明治十二)	
31	川窪村産業の実情……………	429
	一八八一年(明治十四)	
32	共進会出品報告書……………	435

31	一八七五年（明治八）三月 耕地小作証……………	437
32	一八七八年（明治十二）二月 田地小作証書……………	437
第四節	村の様子……………	438
33	一八七八年（明治十二）八月 余川村村誌……………	439
34	一八七九年（明治十二）九月 コレラの蔓延とその対応……………	444
35	一八八〇年（明治十三）十月 虎列刺予防定約書……………	446
36	一八八一年（明治十四） 虎列刺埋火葬地……………	448
37	一八七五年（明治八）十一月 芝居興行願……………	449
38	一八七六年（明治九） 相撲興行願……………	450
39	一八八一年（明治十四）八月 ……………	450
40	花火興行願……………	450
41	一八八一年（明治十四）八月 芝居興行願……………	451
42	一八八二年（明治十五）七月 読書結社・行余社の結成……………	452
43	一八七〇年（明治三）六月 写真術皆伝……………	456
44	一八七〇年（明治三）九月 新潟の写真の門人から今成無事平への書簡……………	457
第二章	町と村の近代化……………	459
第一節	町村制下の六日町……………	460
44	一八八五年（明治十八）九月 清水越新道に関する某氏の意見……………	461
45	一八八五年（明治十八）十二月 清水越新道に関する建議……………	461
46	一八八八年（明治二十）一月 上越鉄道の事……………	462

66	一九〇〇年（明治三十三年）八月 蚕糸業の状況……………	481
67	一九一三年（大正二）十二月 製糸組合の結成……………	482
68	一九一四年（大正三）五月 糸価の堅調と掃き立て数増……………	482
第三節	日清・日露戦争と住民……………	483
69	一八九五年（明治二十八年）四月 兵士並人夫病死者の通牒……………	484
70	一八九五年（明治二十八年）六月 凱旋兵士の歓迎……………	484
71	一八九九年（明治三十二） 赤痢患者収容問題……………	484
72	越南新報創刊の経緯……………	486
73	一九〇一年（明治三十四）四月 第一回六日町病院明治三十三年度報告書……………	488
74	蚕糸業組合……………	489
75	日露戦争時の軍事郵便……………	492
第四節	災害と住民生活……………	492
76	一八九六年（明治二十九年）九月 六日町地方の大風害……………	493
77	一八九八年（明治三十二）五月 南魚沼郡の激震……………	493
78	一八九八年（明治三十二） 寄書 魚沼地震……………	494
79	一八九八年（明治三十二） 寄書 魚沼地震（承前）……………	495
80	一九〇八年（明治四十二）四月 六日町大火後報……………	496
81	一九〇七年（明治四十） 魚沼地方車夫の紛擾……………	496
第五節	六日町の誕生……………	498
82	一九〇〇年（明治三十三年） 南魚沼郡の町村合併……………	499
83	一九〇一年（明治三十四）二月 南魚沼郡会解散顛末……………	500

84	一九〇一年(明治三十四)四月 社説 町村合併は強制すべきものにあらず……	500
85	一九〇一年(明治三十四)五月 社説 再び町村合併を論ず……	502
86	一九〇一年(明治三十四)五月 南魚沼郡の町村合併問題……	503
87	一九〇一年(明治三十四)五月 寄書 余川組合と六日町の合併を論ず 余 川越南生……	503
88	一九〇一年(明治三十四)七月 南魚沼郡参事会の決議……	504
89	一九〇一年(明治三十四) 新潟県自治同盟会南魚沼支部会……	504
90	一九〇三年(明治三十六) 町村合併問題の経緯……	505
91	一九〇三年(明治三十六)十月 南魚沼郡参事会の合併問題への対応……	506
92	学校建築・役場事務等の問題……	507
93	戸数割付加問題への対応……	508
94	教育費問題への対応……	509
95	第六節 宗教と信仰…… 一八九六年(明治二十九) 八海山総本部教会の神祭……	511
96	一九〇四年(明治三十七)五月 神道修成派の白露戦争戦勝祈祷の広告……	512
97	一九〇五年(明治三十八)十二月 御嶽教橋教会の開設広告……	513
98	一九〇三年(明治三十六) 南魚沼郡仏教会規定……	513
99	一八九四年(明治二十七) 八幡宮の郷社昇格……	515
100	一九一〇年(明治四十三)二月 神社の合併について……	515
101	一九〇五年(明治三十八) 寒念仏の風習……	517
	第七節 教育と文化の充実……	517

110	109	108	107	106	105	104	103	102							
一九〇一年(明治三十四)	越南義塾の設立	一九〇一年(明治三十四)	南魚沼郡内の夜学校(抄)	一九〇三年(明治三十六)	六日町小学校の生徒監視	一九一〇年(明治四十三)	大卷村会で議決された小学校授業料徴収規則	一九〇五年(明治三十八)	大卷村における取り組み	一九〇一年(明治三十四)	南魚沼郡の不就学について	元四十日校校舍売却の清算	一八九四年(明治二十七年) 一月	学校の位置についての請願	一八九一年(明治二十四) 十二月
524	523	522	522	521	520	520	518								
117	116	115	114	113	第三章 大正デモクラシー期の六日町			111							
大正四年の県議選における六日町の動向	一九一五年(大正四) 九月	大正四年の総選挙の状況(2)	一九一五年(大正四) 三月	大正四年の総選挙の状況(1)	城内村の村議候補選定会	第一節 町と村、憲政会と政友会	五十沢村尚武会による幻灯会	寺尾青年協会「記事論説」(抄)							
532	531	530	529	529	528	527	525	524							

118	一九一五年(大正四) 九月	532	127	農会報の発刊	543
119	大正四年の県議選における魚沼南部の動向	532	128	一九二九年(昭和四)	
	一九一七年(大正六) 四月			農会の活動	544
120	五十沢村青年党の活動	534		一九一八年(大正七) 四月	
	一九二〇年(大正九) 二月			地主会の事業	548
121	五十沢村有権者が政友会に入党	535	129	一九一九年(大正八)	
	一九二四年(大正十三) 二月			女工募集の状況	549
122	西野雅治の政友会脱退	535	130	一九二六〜二七年(大正十五〜昭和二)	
	一九二四年(大正十三) 三月			五十沢村女工保護組合の活動	550
123	政友本党魚沼倶楽部の結成	536	131	一九二七年(昭和二) 九月	
	一九一九年(大正八) 四月			長野県製糸労働争議への対応	560
	第二節 農業と養蚕業	537		第三節 区有林野統一事業	561
124	農村労働力の欠乏	540	132	一九一五年(大正四) 十二月	
	一九一八年(大正七)			区有財産管理のため区会開設の請求	562
125	南魚沼の収繭高	541	133	一九二三年(大正十二) 九月	
	一九二〇年(大正九) 十一月			区有林統一の同意書	563
126	郡蚕糸業大会宣言	542	134	一九二三年(大正十二) 十月	
	一九二九年(昭和四) 七月			五十沢村林野条例	564

135	一九二六年（大正十五）	道路費削減の論議……………	575
	五十沢村林野統一事業の経緯……………		566
第四節	六日町政の変転……………		570
136	一九一三年（大正二）一月	鎌倉沢川瀬替え県費補助申請……………	571
137	一九一五年（大正四）二月	里道経営規程……………	572
138	一九一六年（大正五）二月	六日町坂戸間橋梁等の論議……………	572
139	一九一八年（大正七）二月	里道四線路着手をめぐる論議……………	573
140	一九一九年（大正八）一月	目黒町長あいさつ……………	573
141	一九二二年（大正十）四月	魚野川洪水への対処……………	573
142	一九二五年（大正十四）二月	中俣町長の大正十四年度予算説明……………	574
143	一九二六年（大正十五）二月		
144	一九二六年（大正十五）六月	青年訓練所設置をめぐる論議……………	575
145	一九二七年（昭和二）二月	肉食は贅沢か否かをめぐる論議……………	576
146	一九二九年（昭和四）二月	中俣町長の昭和四年度予算説明……………	576
147	一九二九年（昭和四）二月	六日町と塩沢の比較論……………	577
148	一九二一年（大正十）十二月	山口千代松「自治論」（抄）……………	578
第五節	文化活動の興隆……………		580
149	一九一六年（大正五）	六日町と城内の図書館について……………	581
150	一九二二年（大正十）四月	五十沢村農会の実業補習学校開設申請……………	584
151	一九二〇年（大正九）一月	六日町青年会農業部会の設立……………	586

152	一九二五年(大正十四)二月 六日町青年団の弁論大会……………	587
153	一九二〇年(大正九) 子守をしながらの通学禁止を決議……………	587
154	一九二四年(大正十三) 六日町中学校の開校決定……………	588
155	一九二五年(大正十四) 六日町実科高等女学校の開校申請……………	588
156	一九二八年(昭和三)六月 大巻小学校における綴方の指導案(抄)……………	590
157	一九二〇年(大正九)三月 越南義塾の閉鎖……………	592
158	一九二〇年(大正九)三月 南魚沼郡のスキー大会……………	593
159	一九二四年(大正十三)二月 坂戸で映画上映……………	594
160	第六節 鉄道の延伸と諸産業……………	594
161	一九一五年(大正四)十二月 六日町の歳末市の賑わい……………	596
162	一九一四年(大正三)四月 今年から歳末市は新暦で開催……………	596
163	一九一四年(大正三)二月 六日町信用組合の設立……………	597
164	一九一四年(大正三)一月 六日町の廃税運動……………	597
165	一九一四年(大正三)五月 五十沢村で製糸工場設立の動き……………	597
166	一九一九年(大正八)十一月 五十沢村で缶詰工場設立の動き……………	598
167	一九一四年(大正三)六月 大巻村五日町で油田開発計画……………	598
168	一九一七年(大正六)三月 六日町の電灯計画……………	599
169	一九二一年(大正十)七月 六日町で休電が続く……………	600

184	183	182	181	180	179	178	177	第一章	第四
五十沢信用組合の創立	六日町のスキー場	東京への牛乳移出計画	麻織物の増産	桐材の大量注文	六日町のハッカ輸出	上越線全通後の六日町の発展策	六日町銀行と六十九銀行の合併	上越線の全通	戦争期の六日町
1935年（昭和十）四月	1935年（昭和十）一月	1934年（昭和九）八月	1932年（昭和七）一月	1931年（昭和六）九月	1931年（昭和六）八月	1931年（昭和六）一月	1927年（昭和二）七月		
615	614	614	613	613	612	612	611	611	610

185	一九三五年(昭和十) 四月		194	一九四四年(昭和十九)	
	片倉製糸の六日町進出……………	615		女子挺身隊結成状況……………	630
186	一九三七年(昭和十二) 九月		195	一九四五年(昭和二十)	
	上越興業株式会社の設立……………	616		農兵隊基礎訓練実施要綱……………	632
187	上越興業株式会社の創立の思い出……………	617	第三節 農民組合と小作争議……………		
第二節 恐慌・凶作、戦時の本格化と農業……………	619	196	自治研究会の発足……………	634	
188	一九三六年(昭和十一)		197	一九三〇年(昭和五) 四月	
	五十沢村の経済更生計画……………	622		最初の小作争議……………	638
189	一九三六年(昭和十二)		198	一九三四年(昭和九) 十月	
	五十沢村更生計画への補正・注意……………	624		五十沢村の農村恐慌の状況……………	638
190	一九三六年(昭和十二)		199	一九三五年(昭和十) 四月	
	城内村更生計画への補正・注意……………	625		城内村の農村恐慌の状況……………	639
191	一九三五年(昭和十)		200	一九三四年(昭和九) 十一月	
	飯米配給払下計画書……………	626		農業恐慌下の争議……………	639
192	一九三九年(昭和十四)		201	一九三五年(昭和十) 十一月	
	事変記念の自創事業……………	627		地主の土地売却の動き……………	640
193	一九四四年(昭和十九) 三月		202	一九三六年(昭和十一)	
	勤労奉仕猶予に関する陳情書……………	628		小作料の減免を求めた争議……………	641

229	物資配給・保育所・女学校 一九四三年（昭和十八）七月	672
230	六日町翼賛壮年団の活動 一九四四年（昭和十九）八月	675
231	学童疎開 一九四五年（昭和二十）	676
232	昭和十九年度追加予算 一九四五年（昭和二十）	676
233	戦争関係費の増大 一九四四年（昭和十九）	677
234	戦死者町葬の様子 一九四五年（昭和二十）	678
	除雪の苦労	679
現代		
第一章	戦後の六日町	683
第一節	敗戦から立ち上がる	684

1	一九四五年(昭和二十)	敗戦直後の六日町議会……………	685
2	一九四六年(昭和二十)	八月 郡民の友生る 六日町長 今成幸一……………	685
3	一九四六年(昭和二十)	十二月 六日町の食糧事情……………	686
4	一九四六年(昭和二十)	十二月 六日町国土復興計画……………	687
5	一九四六年(昭和二十)	十月 民主連盟近く結成 事務所は六日町へ置く……………	690
6	一九四六年(昭和二十)	十一月 「魚沼新報」社説 青年の奮起を望む……………	691
7	一九四六年(昭和二十)	十二月 開田問題を討議 関係地方民の声を プラ ウン博士聴取……………	691
8	一九四七年(昭和二十)	一月 南魚労働者大会 全郡を一九として発足……………	693
9	一九四七年(昭和二十)	四月	
10	一九四七年(昭和二十)	四月 雲尾氏断然勝つ 棄権は二割二分八厘……………	693
11	一九四八年(昭和二十三)	二月 町長の発展と町民生活安定に奉仕 雲尾六日 町長語る……………	694
12	一九四八年(昭和二十三)	四月 国道三国線完成へ 期成同盟役員決る……………	694
13	一九四八年(昭和二十三)	五月 三魚沼提携雪害対策……………	695
14	一九四八年(昭和二十三)	九月 女学校をめぐる町会論議……………	695
15	一九五一年(昭和二十六)	衛生事務等をめぐる町会論議……………	697
16	一九五七年(昭和三十二)	南魚沼郡中央土地改良区事業概況(抄)……………	698
17	一九五四年(昭和二十九)	西部開田の今昔 魚江庵主人…………… 岩野良平六日町長就任時の所信……………	699 702

		第二節 農地改革と食糧増産	703
	(1)	農地改革.....	703
	(2)	食糧増産.....	704
18		一九四五・五〇年(昭和二十・二十五)	
		六日町地域農地委員会別農地改革記録調査	
		結果明細表.....	705
19		一九四七〜四八年(昭和二十二〜二十三)	
		南魚沼郡農地改革記録結果総括表.....	705
20		一九四七〜四八年(昭和二十二〜二十三)	
		農地解放実績調査(六日町).....	707
21		一九四七〜四八年(昭和二十二〜二十三)	
		農地解放実績調査(五十沢).....	708
22		一九四七〜四八年(昭和二十二〜二十三)	
		農地解放実績調査(城内).....	710
23		一九四七〜四八年(昭和二十二〜二十三)	
		農地解放実績調査(大巻).....	712
24		一九六五年(昭和四十) 六月	
		農地被買収者等に対する給付金の支給に関	
		第三節 新教育を求めて	719
29		一九五三年(昭和二十八) 十一月	
		六日町地区開拓計画概要書.....	718
28		一九二九〜六〇年(昭和四〜三十五)	
		西部開拓史.....	716
27		一九四九〜六一年(昭和二十四〜三十六)	
		農業生産力発展のための技術普及.....	715
26		一九五二年(昭和二十七) 三月	
		南魚の水稲生産力.....	715
25		農地委員(第一回城内村の場合).....	714
		する法律(昭和四十年六月三日) にもとづ	
		く給付金請求書.....	714
32		一九四七年(昭和二十二)	
		新制中学校の誕生.....	720
31		一九四七年(昭和二十二)	
		民主的な教育研究協議会の新設.....	720
30		一九四五年(昭和二十)	
		民衆的な教育研究協議会の新設.....	720

33	新教育にとまどう新制中学校……………	722
	一九四六～五二年（昭和二十一～二十七）	
34	六日町小の新教育と放送教育……………	723
	一九四七～四八年（昭和二十二～二十三）	
35	大巻小の新教育……………	724
	終戦直後の六日町中（旧制）の食糧増産学徒開	
	奨動員……………	725
第四節	文化の新局面……………	726
36	一九四六年（昭和二十一）八月	
	敗戦後のお盆の光景……………	727
37	一九四六年（昭和二十一）九月	
	六日町文化連盟の発足……………	727
38	一九四七年（昭和二十二）九月	
	景勝・兼続の顕彰と「おお甚句」……………	728
39	一九四六年（昭和二十一）八月	
	六日町青年会の再出発……………	729
40	一九四六年（昭和二十一）	
	青年会の巡回文庫……………	729
41	一九四七年（昭和二十二）五月	
	六日町の青年弁論大会……………	730
42	一九四九年（昭和二十四）	
	六日町青年会の模擬町会議員選挙……………	730
43	一九四七年（昭和二十二）二月	
	春祭りと放送……………	731
44	一九四九年（昭和二十四）	
	八坂神社の夏祭りと「ミス六日町」……………	731
45	一九四九年（昭和二十四）八月	
	川開き花火の復活……………	731
46	一九四七年（昭和二十二）十月	
	青年会活動の反省……………	732
47	一九四六年（昭和二十一）九月	
	美佐島の土に生きる会……………	732
48	一九四七年（昭和二十二）三月	
	地球会結成の広告……………	732
49	一九四七年（昭和二十二）一月	
	新潟鉄工六日町工場での音楽鑑賞会……………	733

58	一九四七年(昭和二十二) 四月 七洋工芸会社の演劇会……………	733	59	一九四六年(昭和二十一) 十二月 修驗宗の独立……………	737
57	一九四九年(昭和二十四) 五月 南魚沼演劇協議会の結成……………	734	60	一九四九年(昭和二十四) 九月 修驗宗管長の来町と行事……………	737
56	一九四七年(昭和二十二) 六日町社会教育委員会による巡回講演会……………	734	61	一九四九年(昭和二十四) 余川古墳の学術調査……………	738
55	一九四八年(昭和二十三) 六月 六日町社会教育委員の選考……………	734	62	一九四九年(昭和二十四) 一月 ナトコ映写機利用に係る通知……………	738
54	一九四八年(昭和二十三) 七月 六日町公民館の開館……………	735	63	一九五六年(昭和三十) 四月 村内放送開始に係る五十沢村役場内の回覧……………	740
53	一九四九年(昭和二十四) 十一月 六日町公民館についての紹介記事……………	735	64	一九六〇年(昭和三十五) 城内村の有線放送……………	740
52	一九四九年(昭和二十四) 五月 大巻村の成人式……………	736	第二章 高度経済成長期の六日町……………		
51	一九四六年(昭和二十一) 八月 夏山登山の記事……………	736	第一節 新六日町の発足……………		
50	一九四九年(昭和二十四) 八月 六日町野球連盟の結成記念試合……………	737	65	一九五五年(昭和三十) 一月 警官も出動警戒 騒乱の城内村合併村会……………	743
			66	一九五五年(昭和三十) 三月	

目 次

89	一九五九年（昭和三十四）八月 名も六日町まつり 商工まつりから発展し……	757
88	農民温泉計画書進む 一口五百円で加入勧誘……	756
87	一九五八年（昭和三十三年）十一月 温泉街計画進む 来週旅館建設に着手……	755
86	一九六〇年（昭和三十五年）一月 ほくほくのスキー場……	755
85	一九五八年（昭和三十三年）十二月 温泉、お六甚句とデビューした八箇峠スキー場……	754
84	一九五八年（昭和三十三年）七月 西山を大観光地に 中越バス会社乗出す……	754
83	一九五八年（昭和三十三年）一月 「六日町資源開発株式会社」に対する出資……	753
82	一九五七年（昭和三十二年）十一月 六日町で湯脈つき当てる……	753
90	一九六〇年（昭和三十五年）五月 ぐんぐん上昇する地価 六日町三年間で三倍に……	757
91	一九六〇年（昭和三十五年）九月 岩野町長語る……	758
92	一九六二年（昭和三十七）十二月 建築ブームの年 鉄筋コンクリート建が目立つ……	758
93	一九六六年（昭和四十一年）八月 南魚の景気低調 公共投資減が大きな因……	759
94	一九六二年（昭和三十七）七月 地元資金だけでスキー場開発 五日町観光会社……	760
95	五日町スキー場の誕生の頃……	761
96	一九六八年（昭和四十三年）十月 二キロの直線コース 上越MS国際スキー場……	762

104	103	102	101	100	99	98	97	第三節 交通体系と産業の刷新……………763	
一九六四年(昭和三十九) 二月	宿願の起工に歓喜 豪雪の山間貫く北越線……………768	一九六八年(昭和四十三) 四月	北越北線 直江津六日町間が工事線に……………768	一九六四年(昭和三十九) 七月	再び混乱の雲行き 上越西線問題……………767	一九六六年(昭和四十二) 八月	表裏日本結ぶ新国道完成……………766	一九六〇年(昭和三十五) 一月	郡勢の現状と将来 町村指導者に抱負を聴く……………765
魚沼スカイライン建設期成同盟会の結成……………769									
112	111	110	109	108	107	106	105		
一九六四年(昭和三十九) 五月	月産二五〇トン採掘 亜鉛鉱掘削本格化……………773	開始……………773	本格的に亜鉛鉱開発へ 十二億円投じ工事……………772	一九五六年(昭和三十一) 六月	易に……………772	六日町にとき一往復停車 東京日帰りも容易……………772	十日町市六日町線開通、今冬から無雪化……………772	一九七一年(昭和四十六) 五月	スカイライン開通 地元十年の労苦実る……………771

120	一九七二年(昭和四十七) 七月	777	128	一九六八年(昭和四十三) 十月	781
119	一九六九年(昭和四十四) 三月	776	127	一九六五年(昭和四十)	781
118	一九六八年(昭和四十三) 十一月	776	126	喜びの開田取水式 魚野川東部開拓進む	781
117	一九七二年(昭和四十七) 四月	775	125	一九六六年(昭和四十一) 十月	780
116	一九七一年(昭和四十六) 十一月	775	124	一九五九年(昭和三十四)	779
115	一九七一年(昭和四十六) 二月	774	123	一九六一年(昭和三十六) 五月	779
114	一九七〇年(昭和四十五) 十月	773	122	一九七三年(昭和四十八) 三月	778
113	一九七〇年(昭和四十五) 七月	773	121	一九七二年(昭和四十七) 八月	778
	カドミウム汚染はごめん 議会が実態調査			最近一年で五四軒開店 スナックなど花盛	
	へ……………			り……………	
	一九七〇年(昭和四十五) 十月			一九七三年(昭和四十八) 三月	
	宇田沢川などからカドミウム汚染米……………			アパートブーム 手軽な経営に魅力……………	
	東邦亜鉛南越鋳業所 三月末で操業を中止……………			西部開田完工を盛大に祝賀……………	
	東邦亜鉛 カドミウム問題を残して閉山へ……………			一九五九年(昭和三十四)	
	六日町のカドミウム汚染……………			本格調査にかかる魚野川沿岸開発事業……………	
	安い用地と豊富な労力 六日町は工場進出			魚野川東部開拓事業起工式……………	
	ラッシュ……………			一九六八年(昭和四十三) 六月	
	工場進出目立つが 無計画な誘致は混乱の			喜戦の落し子 開拓部落……………	
	恐れ……………			終戦の落し子 開拓部落……………	
	魚沼大会 豪雪地を克服し、明るい将来実				

129	一九七〇年（昭和四十五）八月	783	現誓う……	783
	「六日町総合計画」……	783		
第四節 教育と文化………790				
130	一九六八年（昭和四十三）十月			
	六日町女子高建設地で起工式………791			
131	一九八〇年（昭和五十五）一月			
	六日町小の分離難航 学区線引き案を撤回………791			
132	一九八三年（昭和五十八）一月			
	欠之上小問題 反対住民は徹底抗戦を表明………792			
133	一九九五年（平成七）七月			
	不屈の雪国魂 甲子園つかんだ！………792			
134	一九九五年（平成七）三月			
	走り出す体育科 新生 八海高校の挑戦………793			
135	一九六〇年（昭和三十五）六月			
	南魚APクラブ発会………793			
136	一九八七年（昭和六十二）六月			
	八海文庫詩祭り 文化人と交流 指導十五			
137	一九九八年（平成十）十一月	794	年……	794
	名画眺めて電車待ち JR六日町駅構内に………795			
第三章 高速交通体系の中の六日町………796				
第一節 高速交通体系の整備と町政………797				
138	一九七一年（昭和四十六）十月			
	新幹線駅は湯沢・浦佐 県内五か所 六日町見送り………797			
139	一九七一年（昭和四十六）十月			
	関越高速道に取り組む 六日町楽観戒め奮起………798			
140	一九七三年（昭和四十八）二月			
	高速交通体系への対応………799			
141	一九六四年（昭和三十九）五月			
	関越高速道期成同盟………802			
142	一九八三年（昭和五十八）十月			
	高速道開通を機に 観光キャラバン三方面			

149	一九七六年（昭和五十二） 米づくり実現へ共闘会議 魚野川東部の水	806
148	一九七六年（昭和五十二）二月 北陸農政局 水平畑で通達 畑作営農推進 せよ……………	806
147	一九七五年（昭和五十）六月 魚野川開拓地の田植え やめろとも黙認も できず……………	806
146	一九七五年（昭和五十）五月 魚野川東部開拓地 国の方針に反し田植え……………	805
145	一九八三年（昭和五十八）十一月 なりふり構わぬ中央・大手 小工事も根こ そぎ……………	804
144	一九八六年（昭和六十一）三月 関越道景気のスキー場……………	804
143	一九八五年（昭和六十）十一月 魚沼は観光ラッシュ バス連ね紅葉狩り……………	803
	へ出発……………	802
156	一九七四年（昭和四十九）五月 推進を……………	811
155	一九七三年（昭和四十八）七月 「待った」かけられた観光開発 生活のため 指定……………	811
154	一九七一年（昭和四十六）十二月 自然公園審議会 越後三山など国定公園に 設立……………	810
153	一九六五年（昭和四十）十二月 魚沼山岳を国立公園に 促進期成同盟会を 用地買収で契約 観光会社が八海山開発で……………	810
152	一九七一年（昭和四十六）三月 第二節 スキーと史跡の町……………	809
151	一九七七年（昭和五十二）十月 魚野川東部開拓地 二十一日に完工式……………	808
150	一九七六年（昭和五十二）六月 国営魚野川東部開拓地 農民 訴訟を決意……………	807
	平畑……………	806

165	一九七九年(昭和五十四)三月	816	173	一九七五年(昭和五十)十二月	822
164	坂戸城など二十六件 国の新文化財……………	816	172	新堀工業団地 売り出し中……………	822
163	見直そう坂戸城跡 総合開発委スタート……………	816	171	開かれる交通網 期待の工場像……………	821
162	破壊される埋蔵文化財 社会開発の犠牲に……………	815	170	不況につれない農村工場 定昇・ベアともゼロ……………	821
161	暖冬しのぎ史上最高の一千万人突破……………	815	169	解雇五百人近くも 農村工場に集中……………	820
160	歩くスキー大会 雪のイメージアップへ……………	814	168	十年前の人口に戻った 住宅団地で急増……………	819
159	六十六年冬季国体スキー競技 正式決定……………	814	167	人口増加続く 新幹線工事などが原因……………	819
158	八海山今季から登場……………	813	166	第三節 集積する企業と公共施設……………	818
157	八海山ろく開発計画 議会側、協定に同意……………	813		坂戸城跡 国の文化財指定を告示……………	816
	八海山ロープウェイ 頂上開発は中止……………	812		一九九三年(平成五)四月	
	一九八一年(昭和五十六)十二月			シンボル坂戸山 十年かけて整備……………	817
	一九八三年(昭和五十八)十一月			一九七三年(昭和四十八)六月	
	一九八八年(昭和六十三)八月			一九七四年(昭和四十九)九月	
	一九九〇年(平成二)一月			一九七五年(昭和五十)三月	
	一九九二年(平成四)四月			一九七五年(昭和五十)八月	
	一九七〇年(昭和四十五)七月			一九七五年(昭和五十)十一月	
	一九七六年(昭和五十二)十一月			一九七八年(昭和五十三)三月	
	一九七八年(昭和五十三)三月			一九七九年(昭和五十四)三月	
	一九七九年(昭和五十四)三月				

181	180	179	178	177	176	175	174
一九九〇年(平成二)	一九九〇年(平成二)十一月 デイスポート六日町 きょう開館式……………	一九八九年(平成元)四月 六日町文化会館が開館……………	一九八六年(昭和六十二)十一月 雪国まいたけ 生産拡大へ三工場体制……………	一九九六年(平成八)十二月 ジャスコ六日町SCと駅前ショッピングセ ンター……………	一九九三年(平成五)八月 縮小か撤退か 大型SCに反対運動……………	一九八九年(平成元)一月 初的大型店来年にも誕生 地元主導で歩み 寄る……………	一九七七年(昭和五十二)十一月 大谷ホームセンターの六日町進出……………
	828	828	828	826	825	824	822
188	187	186	185	184	183	182	第四節
一九六九年(昭和四十四)八月 収穫皆無百ヘクタール越す 鉄砲水 冠水	豪雨禍 北へ広がる魚沼で三部落が孤立……………	一九六七年(昭和四十二)三月 宇田沢川河川改修促進に関する陳情……………	一九八五年(昭和六十)六月 魚野川改修 梅雨でも大丈夫 本流筋は完 工……………	一九八一年(昭和五十六)八月 被害五億円超す 後始末に懸命の汗……………	融雪水に悩む六日町平手川流域住民 五月 末に完工……………	一九六〇年(昭和三十五)七月 平手川の流路変更 水害常習地救う……………	八海山文化村十一月三日オープン……………
	835	834	833	832	831	830	829

189	一の悪循環……………	936
190	一九九二年（平成四）十月 三国川ダム完成 関係者出席し記念式典……………	836
191	一九七〇年（昭和四十五）八月 五十沢川 三国川への水路完成 もう洪水 の心配はない……………	837
192	一九八七年（昭和六十二）一月 消雪から流雪へ 初の実験、威力発揮……………	837
193	一九八七年（昭和六十二）二月 六日町で克雪シンポ 多彩な提言に沸く……………	838
194	一九九六年（平成八）十一月 冬場の節水に本腰 住民に危機感浸透……………	839
195	一九七四年（昭和四十九）六月 六日町市街地が地盤沈下の兆し……………	840
196	一九七五年（昭和五十）二月 六日町の地下水 目立つ水位の低下……………	841
197	一九八五年（昭和六十）五月 加速する地盤沈下 町あげ対策模索……………	842
198	一九九三年（平成五）七月 ワースト1 井戸の集中管理検討……………	843
199	一九九三年（平成五）十一月 井戸掘削を禁止 地盤沈下防止で条例可決……………	844
200	一九九六年（平成八）一月 脱消パイの切り札に流雪溝 取水ポンプが 完成……………	844
201	一九五九年（昭和三十四）九月 伊勢湾台風南魚をおそう……………	845
202	第五節 新時代の六日町へ……………	846
203	一九九七年（平成九）十二月 新規の大型公共はぼゼロ 大蔵省原案本県 関係……………	847
204	二〇〇一年（平成十三）十月 六日町バイパス 交通渋滞解消へ期待……………	847
205	二〇〇一年（平成十三）三月 将来の六日町 町民の意識……………	848
206	二〇〇一年（平成十三）三月 二〇〇一年（平成十三）三月……………	848

六日町で誇れるもの……………	848
205 二〇〇一年(平成十三) 三月	
六日町で困っていること……………	849
206 二〇〇一年(平成十三) 三月	
ホワイトピア六日町(第六次六日町総合計 画)……………	850

付録

近世資料を読む手助けに……………	857
執筆者一覧……………	861
郷土史編さん関係者名簿……………	863
資料所蔵者一覧……………	866
あとがき……………	

袋詰付図

『正保 越後国絵図』

魚沼郡南部